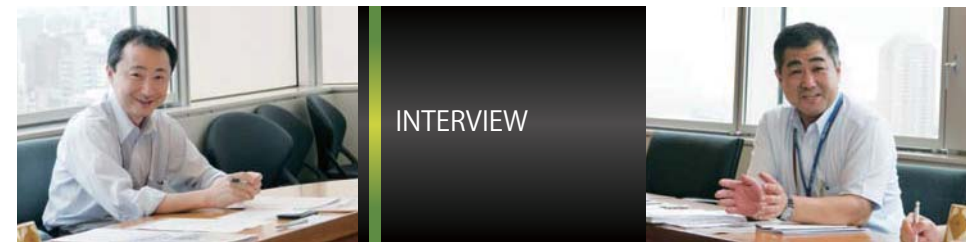


「技術は人なり」をモットーに 学生を育成し、地域と連携する。



1907年に創立され2007年に100周年を迎えた東京電機大学は、2012年に東京東部のターミナル駅である北千住駅前に「東京千住キャンパス(100周年記念キャンパス)」を新設。創立地の東京神田から、工学部、未来科学部、工学部第二部、大学院、法人及び大学の本部機能を移転して中核施設とした。



学校法人 東京電機大学
広報推進本部 副本部長
田丸 健一郎 氏

新キャンパス創設本部 副本部長
井山 義信 氏

新キャンパス開設により、 「技術で社会に貢献する人材育成」を加速。

東京電機大学は、1907年創立以来、科学技術の発展とともに学生数は増加、規模も拡大されてきましたが、校地は手狭となり、また建物老朽化も課題となっていました。

そこで、同大は、学園創立100周年を2007年に迎えたのを機に、次の100年を見据えて新しく東京千住キャンパスを開設することにしました。

東京千住キャンパスは、「TDUルネッサンスと進化」を創設理念とした学園の中核施設として計画され、さらに、2009年には「東京電機大学グランドデザイン」を策定しました。学園の使命「技術で社会に貢献する人材の育成」と、建学の精神「実学尊重」や教育・研究の理念「技術は人なり」を踏襲し、さらなる発展を目指します。

そして、教育・研究を充実させるために、「基礎教育と高度教育の両立」「社会ニーズに対応した多様化教育」「社会に貢献する研究」を指針として、理工系私立大学のトップランナーになることを目標としています。

近年大学を巡る社会的な背景には、18歳人口の減少、大学全入時代の到来、不況による理工系

志願者の増加などがあります。そのため、入学者の学力は様々で、それをある程度まで引き上げる必要があります。本学では、基礎教育の充実をテーマとして、新入学生に基礎学力を確実に付ける教育や、さらにAO入試や推薦入試の合格者には入学前に宿題を与えて通信添削をするなど、独自の導入教育も行っています。

また、実社会の仕事では、技術者がチームを組んで話し合いながら課題を解決していくことが基本となります。理工系の大学では1年次から実験や実習があり、数人で話し合いながら行かないので、コミュニケーションの回り方を自ずと体験でき、学生を主体とした教育が一層充実していきます。

さらに本学は、学生の国際交流大会であるIDCロボットコンテスト[®]に、学生を毎年参加させています。世界中の学生が混成チームを組んで共に生活し、ロボットを作り、競技会を行うもので、同世代の海外の学生を身近で知り、共同作業で人間関係を学びます。2012年には、このIDCロボットコンテストを東京千住キャンパスで開催する予定です。

※IDCロボットコンテスト:東京工業大学とマサチューセッツ工科大学の共催でスタートし、今年23回目を迎えるロボットコンテスト。



キャンパスと駅前を繋ぐ空間は開かれた印象を与える。

2号館-3号館 昼休みには学生が食堂と教室を行きかう。

3号館 大吹抜

1号館2階開放デッキから2号館を見る。ブリッジの下には、区道がはしる。



連結縦型蓄熱槽／ヒートポンプを利用した省エネ最先端の巨大蓄熱システム。建物の架構に組み込まれ、廊下などからも見ることができる。



デジタルサイネージ(上)と電子ペーパー(下)／デジタルサイネージは情報を目的に合わせて表示。教室入口に設置された電子ペーパーは授業情報を表示。省エネと情報発信の向上のために、電子化しペーパーレスを目指す。



4号館 教室(防音仕様)／イス:ルッシュ、デスク:CTZ



キャンパスプラザは周辺住民にも憩いの空間となっている。

キャンパス各所にICカードを必要とするゲートを設置。



1号館 教室／イス:ルッシュ、デスク:CTZ



1号館 アゴラ



1号館 ルーフガーデン



2号館 教室

駅前のキャンパスづくりは、地域や企業との連携も大切に。

様々な選択肢のなか、足立区千住への移転を決定したのは偶然でもありました。本学が校地を探していたとき、たまたま足立区からお話があり、文化教育立区として積極的に大学誘致を進める方針や地域のご理解も頂いたため、この地を新天地とすることができました。東京23区内で6路線が乗り入れるターミナル駅前に位置し、交通の便は大変いいですね。



四季折々の木々が植栽。

計画時から北千住駅東口周辺地区まちづくり連絡会に参加させて頂き、地域との協議を重ねながら、可能な限り要望に応えるキャンパスづくりに努力してきました。具体的には、「柵が無く開放的」「イベントができる広場」「大きな駐輪場の確保」「雨天でも待合わせできる場や飲食店」「緑豊かな散歩道」などです。キャンパスが開放的であることは大変いいと思いますが、一方セキュリティも重要です。対策として、学内の情報インフラを生かしたICカードとゲートを設置するなど、「オープンでセキュア」という概念で安全策をとっています。また、キャンパス周囲には四季の移り変わりを感じることでできる樹種で緑豊かな散歩道を作りました。小学校が

あるキャンパス東側はシンボルツリーのサクラなど落葉樹を、駅や商店街がある西側は落ち葉に配慮して常緑樹を植え分けています。教職員や学生が集える空間「アゴラ」も特徴的です。雨天でも待合わせやイベントができる「ロτζア」やキャンパス中央のキャンパスプラザなど、大学や地域の交流スペースも用意しました。こうした実践により、まちづくり連絡会や地元の皆さんから感謝の声をたくさんいただいています。

もちろん、環境に配慮し先端技術を導入しています。例えば、縦型蓄熱槽や高効率エアフローウインドウ、人感センサーを利用した照明・空調等の制御によるCO₂の削減などです。さらに防災面でも、数々の技術を導入し、地域の

未来社会で役立つインテリジェントな技術者の育成を。

防災拠点にもなり得る建物としています。

また、本学は以前から、産官学交流活動に力を入れてきました。2011年には、東京千住キャンパスの近くにある旧中学校を改装して複合施設「東京千住アネックス」を開設し、その4階に足立区からの要請に応じて起業家支援のインキュベーションオフィス*「かけはし」を設けました。3階には、大学が企業と協働で研究を行うためのリエゾンオフィス*を設けています。企業連携と共に地域連携の拠点としても期待されます。

*アゴラ:キャンパスの各所にあり、人々が集い語ることで新たな価値が生まれるような空間。
*ロτζア:待ち合わせやイベントなどに使える、ファサードに面したピロティ状の空間。
*インキュベーションオフィス:起業する入居者を支援する施設。
*リエゾンオフィス:別々に活動しているグループの連携を図るための施設。

科学技術は、地球と人類の豊かな未来のためのものです。そして知識が社会で重要な価値を占める21世紀の知識基盤社会では、環境の変化や科学技術の進歩に積極的に対処し、問題を解決する能力を備えたインテリジェントな高度専門技術者が期待されています。

本学では、「TDUグランドデザイン」に基づき、実験・実習を重視し、基盤教育、基幹専門科目の充実を図りながら大学院の充実・拡張を図り、未来社会で役立つ技術者の育成を目指しています。

大学の社会的な使命は、教育・研究・社会貢献といわれていますが、これらは個別ではなく、有機的に関連し循環するべきであると思

ます。そうした意味からも地域や産業界などの連携は重要といえます。

またキャンパスはその大学の精神を表現します。人や環境、安全を体現したこの新キャンパスで学んだ学生たちが、本学の精神を胸に世界に飛躍していくことを楽しみにしています。



足立区の誘致大学である東京藝術大学の宮田亮平学長作モニュメント「飛躍」